

アルコール依存症薬

平成30年3月 日野店

「酒癖が悪い人」「意思が弱い人」だけになるわけではなく、お酒を飲む人なら誰でも発病の可能性がある精神と肉体の病気です。長期間にわたり大量飲酒すると、「アルコールへの精神的・身体的依存」が形成され、どうしても飲まずにはいられなくなってしまいます。時と場所を選ばずお酒を求め、飲酒のために暴力的な行動をとり、飲酒に対するコントロールを失ってしまう状態がアルコール依存症という病気です。重症になると、飲酒後48時間程経って体からアルコールが抜ける際に、汗をかいたり、手足が震えたり、幻覚を見たりといった禁断症状が現れます。それを抑えるために、さらにアルコールを飲むようになり、最後には全身がアルコールに侵されてしまいます。アルコール依存症の治療には「断酒」しかありません。

ノックビン（ジスルフィラム） シアナマイド（シアナミド）

一時的にお酒に対して、非常に弱い体質をつくる作用があります。特にお酒に弱い人は飲酒するとすぐに顔が赤くなり、さらに飲酒すると頭痛や吐き気など不快な症状が出てきます。元々お酒の強い人にこれらのお酒に対する反応を起こし、お酒を飲めなくするわけです。どうやってお酒に弱い体質を作り出すのか？肝臓にあるアルデヒド脱水酵素の働きを邪魔することで、アルコール→アセトアルデヒド→酢酸という経路で起こる代謝をアセトアルデヒドの状態でストップします。

抗酒剤	薬物の形態	効果が出るまでの時間	作用持続時間
ノックビン	粉末	3日～7日	14日
シアナマイド	液剤	数分	12～24時間

ノックビンの用法・用量

通常1日0.1～0.5gを1～3回に分割経口投与する。

本剤を1週間投与した後に通常実施する飲酒試験する場合には、患者の平常の飲酒量の1/10以下の酒量を飲ませる。飲酒試験の結果発現する症状の程度により本剤の用量を調節し、維持量を決める。維持量としては、通常0.1～0.2gで、毎日続けるか、あるいは1週毎に1週間の休薬期間を設ける。

シアナマイドの用法・用量

通常 1 日 5～20mL を 1～2 回に分割投与する。

本剤を 1 週間投与した後に通常実施する飲酒試験する場合には、患者の平常の飲酒量の 1/10 以下の酒量を飲ませる。飲酒試験の結果発現する症状の程度により本剤の用量を調節し、維持量を決める。節酒療法の目的で用いる場合には、飲酒者のそれまでの飲酒量によって異なるが、酒量を清酒で 180mL 前後、ビールで 600mL 前後程度に迎えるには、通常シアナミドとして 1.5～6mL を 1 日 1 回経口投与する。飲酒抑制効果の持続するものには隔日に登用してもよい。

それぞれの特性があるので、本人や家族の状況に応じて選択することになります。
抗飲酒剤を服用しても飲酒要求がなくなることはありません。

レグテクト（アカンプロサート）

脳に作用してアルコールに対する欲求を抑える効果があるとされています。
アルコール依存症の場合、飲酒によってグルタミン酸作動性神経活動が活発になり、興奮状態をもたらすグルタミン酸が減少してくると、強い飲酒欲求を感じます。アカンプロサートはグルタミン酸作動性神経の働きを抑制する作用があり、脳が興奮を覚えなくなり、飲酒に対する欲求も抑制されます。脳神経の興奮が抑えられる断酒を維持しやすくなる薬です。

用法・用量

1 回 2 錠（666mg）、1 日 3 回毎食後服用。

- ・断酒の意思の患者にのみ使用すること
- ・心理社会的治療と併用すること
- ・投与は原則として 24 週間まで（有益性が認められる時のみ延長可能）

アルコール依存性のプログラムを持つ病院で診察・処方を受けることが重要です。